



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2025年
No.3
事例3

疑義照会・処方医への情報提供

副作用の発現（歯肉肥厚）



事例

【事例の詳細】

アムロジピン錠5mg「トーフ」を服用中の患者が、歯科医師から歯肉肥厚と診断され、降圧剤が原因である可能性を指摘された。患者は、歯科で治療を行ったが、歯肉肥厚が改善しないため電話で薬局に相談した。アムロジピン錠の添付文書には、「その他の副作用」に歯肉肥厚の記載がある。発現頻度は0.1%未満であるが、症状が継続しているため副作用の可能性を考慮して処方医にトレーシングレポートを提出した。その後、アムロジピン錠5mg「トーフ」からオルメサルタンOD錠20mg「トーフ」に変更となった。

【推定される要因】

未記載

【薬局での取り組み】

処方医に患者の情報を提供した後は、関連する薬剤の処方状況を確認し、患者から症状の経過を随時聴取する。



その他の情報

アムロジピン錠2.5mg/5mg/10mg/OD錠2.5mg/5mg/10mg「トーフ」の添付文書 2024年10月改訂(第3版)（一部抜粋）

11.副作用

11.2 その他の副作用

	0.1%未満
口腔	(連用により) 歯肉肥厚



事例のポイント

- 本事例は、薬剤の副作用で歯肉肥厚が発症している可能性を歯科医師に指摘された患者から相談を受けた薬剤師が、患者が服用しているカルシウム拮抗薬の副作用を疑い処方医に情報提供した結果、薬剤が変更になった事例である。
- 薬剤による歯肉肥厚は、カルシウム拮抗薬のほか、フェニトインなどの抗てんかん薬やシクロスポリンなどの免疫抑制薬でも起こることがある。
- 発現頻度の低い副作用であっても、患者から聴取した情報から副作用の可能性が疑われる場合は、電話やトレーシングレポートなどを用いて処方医に情報提供を行うことが、安全で適切な薬物治療のために必要である。
- 歯垢や歯石など口腔内の衛生状態の悪化は、歯肉肥厚の増悪因子となり、歯肉肥厚が疑われる場合には、ブラッシングや歯石除去などの口腔衛生管理が必要である。薬剤師は歯肉肥厚の原因と思われる薬剤を変更した後も、歯科医師と連携し患者の症状の経過などに関する情報を共有することが重要である。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqhcc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。